

2024 年度
学生生活アンケート 報告書
(清泉女学院短期大学)

学生生活委員会

目次

1. 調査概要	4
(1) 調査目的	
(2) 調査期間	
(3) 調査対象者と回答率	
2. アンケートの集計（全体）	5
(1) 本学での学び・学生生活について問う項目	
①本学での学びにあたっての質問項目	5
設問1【ディプロマ・ポリシーの認知】【入学満足度】【キャリア計画】	
②学生生活に対する考えを問う項目	6
設問2【教育満足度】【将来のキャリアイメージ】【健康成長意欲】	
設問3【専任教員との関係】・【友人関係】・【学内での居場所】	
③時間の使い方に関する項目	9
設問4 1日当たりの時間の使い方（SNS利用・通学・読書・自習・交友）	
設問5 1日当たりの時間の使い方（学内活動、学外活動、ケアなど）	
④悩みや悩んだ時の相談先に関する項目	13
設問6 現在の悩み事	
設問7 悩みや問題にぶつかった時、主に相談する先	
(2) 相談窓口・施設設備関連について問う項目	
①学内の相談窓口の認知に関する項目	14
設問8 学内の相談窓口の認知度	
②本学からの連絡を受け取る手段に関する項目	15
設問9 本学からの連絡を受け取る手段	
③施設設備の利用に関する項目	16
設問10 授業時間外の施設設備の利用	
④施設設備の満足度に関する項目	19
設問11 施設設備の満足度	

(3) 教育体制・各部署の対応について問う項目

①教育体制への満足度に関する項目	21
設問 12 教育体制に対する満足度	
②各部署の対応の適切さに関する項目	23
設問 13 各部署の対応の適切さ	
1. 学生支援部（教務課・学生課）	24
2. 学生支援部（キャリア支援課）	24
3. 地域連携センター	24
4. 国際交流センター	24
5. システム室	25
6. 総務部（M館1階の総務課・管財課、経理課）	25
7. 入試広報部	25
8. 図書館（上野・東口）	25
9. 保健室	26
10. 東口事務部	26

3. アンケートの集計（学科） 27

(1) 幼児教育科

設問 1 保育者養成に関する教材について	27
設問 2 この1年での自身の振り返りについて	27

(2) 国際コミュニケーション科

設問 1 授業時間外の取り組みで、もっとも良かったと思うもの	29
設問 2 社会人基礎力（清泉スピリット5つの力）の向上について	29
設問 3 社会人基礎力（清泉スピリット5つの力）の向上に特に役立つと 考える授業や授業外経験	30
設問 4 社会人基礎力（清泉スピリット5つの力）の向上にさらに必要だと 思う支援・取り組み	30

1. 調査概要

(1) 調査目的

学生の本学における学校生活の実態と学校生活満足度を把握し、統計的な処理をへて、教育の質向上や教育環境の改善に役立てることを本調査の目的とする。

(2) 調査期間

2024年12月9日(月)～2025年1月10日(金)

(3) 調査対象者と回答率

	対象者層	回答数	在籍数	回答率(前年度)	
短大	幼児教育科1年	63	69	91.3% (87.7%)	
	幼児教育科2年	53	72	73.6% (53.4%)	
	国際コミュニケーション学科1年	27	34	79.4% (70.0%)	
	国際コミュニケーション学科2年	28	42	66.7% (59.3%)	
大学	心理コミュニケーション学科1年	33	47	70.2% (72.0%)	
	心理コミュニケーション学科2年	32	74	43.2% (71.2%)	
	心理コミュニケーション学科3年	41	62	66.1% (64.3%)	
	心理コミュニケーション学科4年	39	74	52.7% (54.5%)	
	文化学科1年	19	25	76.0% (86.7%)	
	文化学科2年	15	30	50.0% (58.6%)	
	文化学科3年	17	33	51.5% (42.3%)	
	文化学科4年	16	25	64.0% (47.2%)	
	看護学科1年	49	57	86.0% (51.8%)	
	看護学科2年	37	78	47.4% (42.9%)	
	看護学科3年	35	76	46.1% (31.4%)	
	看護学科4年	40	88	45.5% (43.5%)	
		大学院看護学専攻/助産学専攻科	13	19	68.4% (62.5%)
		短大全体	171	217	78.8% (66.9%)
	大学全体	373	669	55.8% (56.7%)	
	組織全体	557	905	61.5% (57.6%)	

2. アンケートの集計（全体）

（1）本学での学び・学生生活について問う項目

①本学での学びにあたっての質問項目

（Q1）ディプロマ・ポリシーの認知・入学満足度・キャリア計画

設問1では、本学での学びに当たっての質問項目である以下の9項目について、回答が設問項目の表示順序による影響を受けないよう、設問はランダムイズし、尋ねた。回答方法は、「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の4件法であり、「あてはまる」を4点、「あてはまらない」を1点として集計した。2024年度および2023年度の短期大学の学科・学年ごと、及び全体を集計した平均値（ μ ）及び標準偏差（ σ ）を記載する。

【ディプロマ・ポリシーの認知（3項目）】

1. 本学の理念を知っている
2. 本学の歴史について説明できる
3. 所属学部のカリキュラム・ポリシーを知っている

【入学満足度（3項目）】

4. 入学した学部・学科が自分に合っている
5. 清泉に入学してよかったと感じる
6. 所属学科には学びたい科目がある

【キャリア計画（3項目）】

7. 在学期間中、学内で取得できる資格を熟知している
8. 入学に際して、自分のキャリアを想定して本学を選んだ
9. 所属学部が養成しようとしている人材像を知っている

◆短大(昨年度比較)							
対象者層	ディプロマ・ポリシーの認知		入学満足度		キャリア計画		
	(2024年度)	(前年度)	(2024年度)	(前年度)	(2024年度)	(前年度)	
	μ (σ)						
短大	幼児教育科1年	8.3 (2.32)	7.1 (2.02)	10.9 (1.29)	9.8 (1.95)	10.4 (1.32)	10.1 (1.33)
	幼児教育科2年	7.2 (2.35)	8.0 (2.44)	10.2 (1.91)	11.2 (1.29)	10.2 (1.68)	10.9 (1.16)
	国際コミュニケーション科1年	7.6 (2.35)	7.5 (1.66)	10.3 (1.71)	10.3 (1.39)	8.4 (1.75)	8.8 (1.68)
	国際コミュニケーション科2年	8.2 (1.8)	7.8 (2.58)	10.8 (1.37)	10.5 (1.9)	8.9 (1.79)	8.7 (2.06)
短大全体	7.8 (2.31)	7.6 (2.25)	10.6 (1.77)	10.4 (1.78)	9.8 (1.76)	9.8 (1.77)	
組織全体	7.9 (2.3)	7.6 (2.2)	10.2 (1.69)	10.2 (1.78)	9.3 (1.88)	9.3 (1.84)	
		12点満点		12点満点		12点満点	

ディプロマ・ポリシーの認知については、12点中短大全体の平均は7.8、標準偏差は2.31となっており、どちらの学科も比較的得点が高い傾向が見られた。最も得点が高かったのは幼児教育科1年生であり、次いで国際コミュニケーション科2年生であった。国際

コミュニケーション科の2年生はばらつきも小さく、総じて高いスコアであることから、広くディプロマ・ポリシーが認知されていると考えられよう。また、昨年度と単純に比較はできないものの、幼児教育科の2年生を除いてディプロマ・ポリシーの認知の平均得点は上がり、短大の平均は上がったものの標準偏差は大きくなっている。認知している者とそうでない者との間に開きが出てきている可能性が考えられる。

入学満足度については、12点中短大全体の平均は10.6、標準偏差は1.77となっており、本学に入学したことに関する満足度は全体的に非常に高いといえる。昨年度との比較の上でも高い水準が維持されていることが読み取れる。全体として学校や教育環境への適応や、カリキュラムに対する満足度を反映していると考えられるため、引き続き学生のニーズを把握し、入学満足度を維持する試みが求められよう。

キャリア計画については、12点中短大全体の平均は9.8、標準偏差は1.76となっており、総じて高い得点が昨年度に引き続き維持されているものの、幼児教育科がより高い傾向にある。保育者となっていくことを前提として入学していることから明確な動機付けがある点が影響したと推察される。各学科により、習得できる資格や、卒業後に想定されるキャリアや人物像は異なっているが、それらをどのように学生に伝えていくことができるか、今後さらなる工夫が必要であるように思われる。

②学生生活に対する考えを問う項目

(Q2) 教育満足度・将来のキャリアイメージ・健康成長意欲

設問2では、本学に入学してからの学生生活に関する以下の10項目について、回答が設問項目の表示順序による影響を受けないよう、設問はランダムイズして尋ねた。回答方法は、「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の4件法であり、「あてはまる」を4点、「あてはまらない」を1点として、必要に応じて逆転項目処理を行った。2024年度および2023年度の短期大学の学科・学年ごと、及び全体を集計した平均値(μ)及び標準偏差(σ)を記載する。

【教育満足度(4項目)】

1. 将来に向けて必要な学びが用意されていると思う
2. 全体として本学の教育内容や教育方法に満足している
3. 授業の内容や学びを通して、視野が広がった
4. 自分の成績評価は妥当だと思う

【将来のキャリアイメージ(3項目)】

5. 希望の進路を目指して自分なりに努力している
6. 卒業後の自分のキャリアや就職イメージがより鮮明になった
7. 将来、何がやりたいのかまだはっきりしていない(逆転項目)

【健康・成長意欲（3項目）】

8. 自分は健康であると思う
9. この1年の成長を実感している
10. 自分は授業に積極的に参加している

◆短大(昨年度比較)							
対象者層	教育満足度		将来のキャリアイメージ		健康・成長意欲		
	(2024年度) (前年度)		(2024年度) (前年度)		(2024年度) (前年度)		
	μ (σ)						
短大	幼児教育科1年	13.8 (1.9)	12.6 (2.45)	9.0 (1.48)	8.3 (2.15)	10.2 (1.47)	9.8 (1.88)
	幼児教育科2年	12.7 (2.3)	14.7 (1.46)	9.2 (1.85)	10.1 (1.54)	9.7 (1.8)	10.4 (1.27)
	国際コミュニケーション科1年	13.3 (2.19)	13.4 (1.5)	7.2 (1.39)	7.6 (1.67)	9.3 (1.62)	9.4 (1.52)
	国際コミュニケーション科2年	13.5 (1.55)	13.3 (2.54)	8.9 (1.75)	8.9 (2.27)	10.0 (1.57)	10.2 (1.28)
	短大全体	13.3 (2.08)	13.4 (2.26)	8.8 (1.78)	8.8 (2.14)	9.9 (1.65)	10.0 (1.61)
	組織全体	13.2 (2.14)	13.3 (2.07)	8.4 (1.98)	8.4 (2.22)	9.7 (1.77)	9.7 (1.8)
		16点満点		12点満点		12点満点	

教育満足度については、16点満点中、短大全体の平均が13.3と高いものの、幼児教育科2年生（前年度の1年生）は全体的にみると低い値を示している。

将来のキャリアイメージについては、12点満点中、短大全体の平均が8.8と全体的に得点が高く、標準偏差は1.78とばらつきも小さい。前年度と比べて標準偏差が小さくなっていることから、より将来のキャリアイメージにつながる学びができていると考えられる。

健康・成長意欲については、12点満点中、短大全体の平均が9.9と高く、標準偏差が1.65であった。健康・成長意欲は学生生活のみならず、基本的な生活や就職等にもかかわるであろうことから、健康で、意欲的な学生のための教育活動を今後も継続していくことが望まれよう。

(Q3) 専任教員との関係・友人関係・学内での居場所

設問3では、本学に入学してからの学生生活のうち、人間関係に関する14項目について、回答が設問項目の表示順序による影響を受けないよう、設問はランダム化し、尋ねた。回答方法は、「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の4件法であり、「あてはまる」を4点、「あてはまらない」を1点として、必要に応じて逆転項目処理を行った。2024年度および2023年度の、短期大学の学科・学年ごと、及び全体を集計した平均値(μ)及び標準偏差(σ)を記載する。

【専任教員との関係（4項目）】

1. 専任教員と話をしたり関わったりする時間がある
2. 困ったときに相談できる先生がいる
3. 努力したことを認めてくれる教員がいる
4. 指導教員やゼミの教員から適切な指導を受けている

【友人関係（4項目）】

5. 学内には気軽に話せる友人がいる
6. 協力してくれるような友人がいる
7. 学内に自分の本音を話せる友達がいる
8. 昼食時や休み時間などは、ひとりでいることが多い（逆転項目）

【学内での居場所（4項目）】

9. 学内に一人で過ごせる場所がある
10. 大学の中に自分の居場所がある
11. 大学・短大の雰囲気が気に入っている
12. 周囲の目が気になって、気疲れすることがある（逆転項目）

◆短大(昨年度比較)							
対象者層	専任教員との関係		友人関係		学内での居場所		
	(2024年度)	(前年度)	(2024年度)	(前年度)	(2024年度)	(前年度)	
	μ (σ)						
短大	幼児教育科1年	13.3 (2.39)	11.9 (2.99)	14.8 (1.63)	14.1 (2.7)	12.8 (2.14)	11.7 (2.86)
	幼児教育科2年	12.1 (2.85)	13.9 (2.44)	14.1 (2.11)	14.9 (1.62)	12.1 (2.24)	13.1 (1.92)
	国際コミュニケーション科1年	13.1 (2.45)	11.6 (2.92)	12.9 (3.46)	12.9 (2.61)	12.6 (2.02)	12.4 (1.93)
	国際コミュニケーション科2年	13.0 (2.32)	13.1 (2.09)	11.9 (2.86)	12.7 (2.62)	12.3 (2.04)	12.0 (1.98)
	短大全体	12.8 (2.59)	12.6 (2.83)	13.8 (2.59)	13.8 (2.58)	12.5 (2.16)	12.3 (2.39)
	組織全体	12.3 (2.8)	12.4 (2.84)	13.2 (2.83)	13.4 (2.77)	12.1 (2.32)	11.9 (2.5)
		16点満点		16点満点		16点満点	

専任教員との関係については、16点満点中、短大全体の平均が12.8、標準偏差が2.59であった。前年度と比べて、平均点が上がり、標準偏差が小さくなっていることから、より高い得点に集中している。学科を問わず、専任教員との関係は概ね良好といえよう。特に、国際コミュニケーション科の2年生（前年度、1年生）は平均点を11.6から13.0へと1ポイント以上高くなっており、標準偏差が小さくなっている。学年が上がりより専門的な学びになる中で専任教員のかかわりが良好となっている点は特筆すべきであろう。

友人関係については、16点満点中、短大全体の平均が13.8、標準偏差が2.59であり、おしなべて高い。他方で、幼児教育科と国際コミュニケーション科においては、両学年とも平均点が14.0を超える幼児教育科は、より学科内の友人関係が緊密な学科であると考えられる。こうした緊密さは、ひとたび仲間となれば居心地がよいであろうものの、こうした環境で孤立する場合、非常に強いストレスを感じるであろう。学科・学年の特徴を踏まえながら、友人関係における著しい課題が生じる前段階でのケアを念頭に置きながらの教育活動が重要となろう。

学内での居場所については、16点満点中、短大全体の平均が12.5、標準偏差が2.16であった。前年度と比べて、平均点が上がり、標準偏差が小さくなっていることから、より高い得点に固まっているといえ、学生は学内での居場所をそれぞれに持っていると考えられよう。

③時間の使い方に関する項目

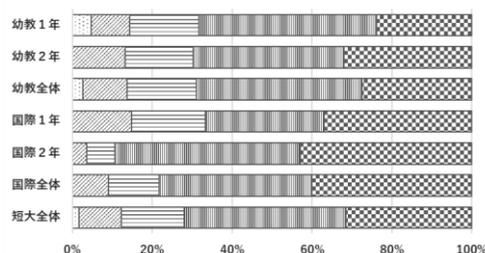
(Q4) 1日当たりの時間の使い方 (SNS・通学・読書・自習・交友)

設問4では、学生生活に関わる【SNS利用】【通学】【読書】【自習】【交友】について、1日当たりどのくらいの時間を使っているかを尋ねた。回答が設問項目の表示順序による影響を受けないよう、設問はランダムイズした。回答方法は、「行わない」「1時間未満」「1～2時間」「2～3時間」「3時間以上」の5件法である。短期大学の学科・学年ごと、及び短大全体を集計し、それぞれの項目に対する回答の人数を左側の表に、回答の割合（パーセンテージ）を右側の図に記載する。

凡例： □ 行わない ▨ 1時間未満 ▩ 1～2時間 ▪ 2～3時間 ▧ 3時間以上

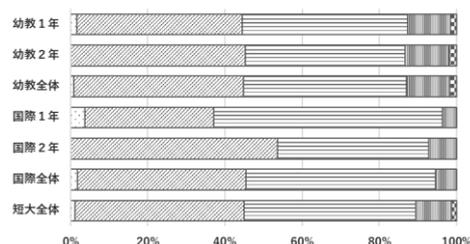
1. SNS(Line や Twitter, Instagram など) の投稿、閲覧、操作

	行わない	1時間未満	1～2時間	2～3時間	3時間以上	合計
幼教1年	3	6	11	28	15	63
幼教2年	0	7	9	20	17	53
幼教全体	3	13	20	48	32	116
国際1年	0	4	5	8	10	27
国際2年	0	1	2	13	12	28
国際全体	0	5	7	21	22	55
短大全体	3	18	27	69	54	171



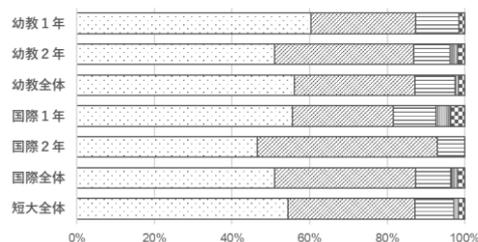
2. 往復の通学

	行わない	1時間未満	1～2時間	2～3時間	3時間以上	合計
幼教1年	1	27	27	7	1	63
幼教2年	0	24	22	6	1	53
幼教全体	1	51	49	13	2	116
国際1年	1	9	16	1	0	27
国際2年	0	15	11	2	0	28
国際全体	1	24	27	3	0	55
短大全体	2	75	76	16	2	171



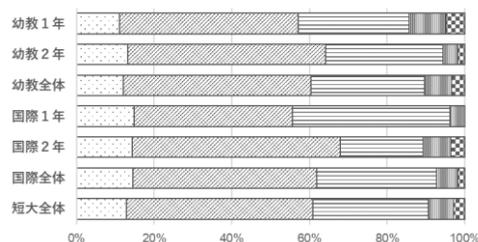
3. 読書 (電子書籍を含む)

	行わない	1時間未満	1～2時間	2～3時間	3時間以上	合計
幼教1年	38	17	7	0	1	63
幼教2年	27	19	5	1	1	53
幼教全体	65	36	12	1	2	116
国際1年	15	7	3	1	1	27
国際2年	13	13	2	0	0	28
国際全体	28	20	5	1	1	55
短大全体	93	56	17	2	3	171



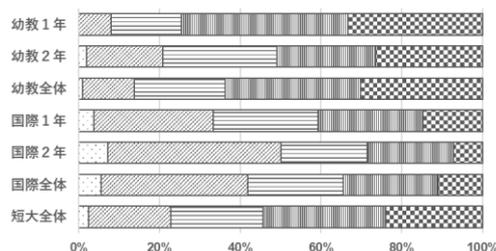
4. 事前学習、事後学習などの自習

	行わない	1時間未満	1～2時間	2～3時間	3時間以上	合計
幼教1年	7	29	18	6	3	63
幼教2年	7	27	16	2	1	53
幼教全体	14	56	34	8	4	116
国際1年	4	11	11	1	0	27
国際2年	4	15	6	2	1	28
国際全体	8	26	17	3	1	55
短大全体	22	82	51	11	5	171



5. 友達との会話

	行わない	1時間未満	1～2時間	2～3時間	3時間以上	合計
幼教1年	0	5	11	26	21	63
幼教2年	1	10	15	13	14	53
幼教全体	1	15	26	39	35	116
国際1年	1	8	7	7	4	27
国際2年	2	12	6	6	2	28
国際全体	3	20	13	13	6	55
短大全体	4	35	39	52	41	171



【SNS 利用】については、いずれの学科も 2 時間以上の利用者が過半数を超えていた。【通学】については往復にかかる時間が 1 時間未満および 1～2 時間の学生が大半を占めた。【読書】は、両学科とも読書しない者が最も多かった。【自習】は、1 時間未満の学生が最も多く、次いで 1～2 時間であった。【交友】については、学科による違いが伺え、幼児教育科は友達との会話を 2 時間以上する者が半数以上を占め、国際コミュニケーション科は 2 時間未満が半数を占めた。

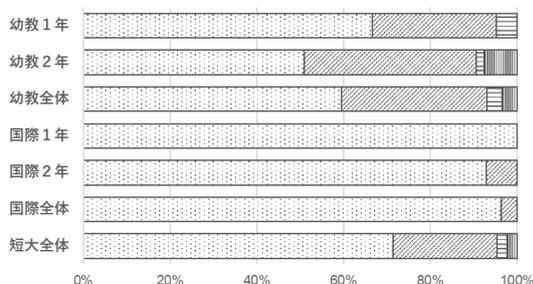
(Q5) 1 日当たりの時間の使い方 (学内活動・学外活動・ケアなど)

設問 5 では、学生生活のうち課外活動、プライベートな活動、ケアに関わる活動として【クラブ・サークル】【清泉祭の企画運営】【学生会】【ボランティア】【アルバイト】【学校以外の勉強】【友人と遊ぶ・趣味】【親兄弟の介護や世話】【家事】について、1 日当たりどのくらいの時間を使っているかを尋ねた。回答が設問項目の表示順序による影響を受けないよう、設問はランダム化した。回答方法は、「行わない」「週に数日」「週の半分」「ほとんど毎日」の 4 件法である。短期大学の学科・学年ごと、及び短大全体を集計し、それぞれの項目に対する回答の人数を左側の表に、回答の割合（パーセンテージ）を右側の図に記載する。

凡例： □ 行わない ▨ 週に数日 ▩ 週の半分 ■ ほとんど毎日

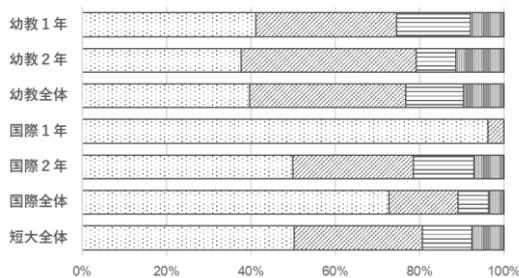
1. クラブ・サークル活動

	行わない	週に数日	週の半分	ほとんど毎日	合計
幼教1年	42	18	3	0	63
幼教2年	27	21	1	4	53
幼教全体	69	39	4	4	116
国際1年	27	0	0	0	27
国際2年	26	2	0	0	28
国際全体	53	2	0	0	55
短大全体	122	41	4	4	171



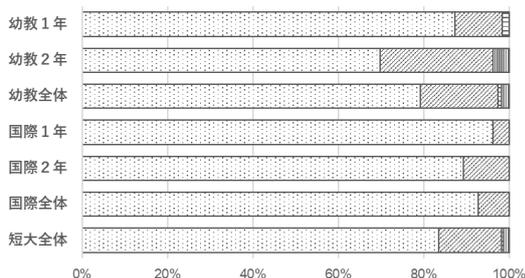
2. 清泉祭の企画運営（準備期間中の活動）

	行わない	週に数日	週の半分	ほとんど毎日	合計
幼教1年	26	21	11	5	63
幼教2年	20	22	5	6	53
幼教全体	46	43	16	11	116
国際1年	26	1	0	0	27
国際2年	14	8	4	2	28
国際全体	40	9	4	2	55
短大全体	86	52	20	13	171



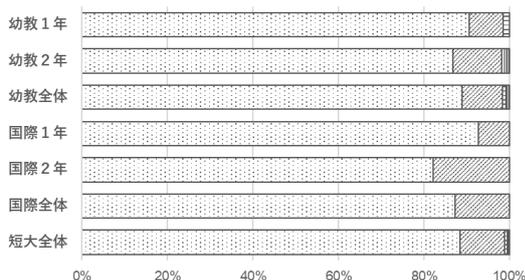
3. 学生会活動

	行わない	週に数日	週の半分	ほとんど毎日	合計
幼教1年	55	7	1	0	63
幼教2年	37	14	0	2	53
幼教全体	92	21	1	2	116
国際1年	26	1	0	0	27
国際2年	25	3	0	0	28
国際全体	51	4	0	0	55
短大全体	143	25	1	2	171



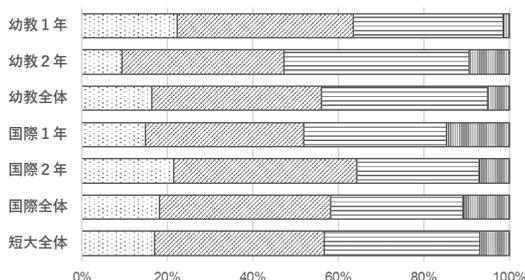
4. ボランティア活動

	行わない	週に数日	週の半分	ほとんど毎日	合計
幼教1年	57	5	1	0	63
幼教2年	46	6	0	1	53
幼教全体	103	11	1	1	116
国際1年	25	2	0	0	27
国際2年	23	5	0	0	28
国際全体	48	7	0	0	55
短大全体	151	18	1	1	171



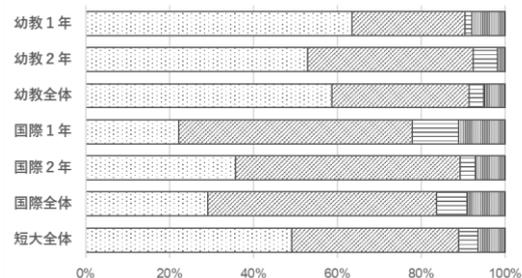
5. アルバイト

	行わない	週に数日	週の半分	ほとんど毎日	合計
幼教1年	14	26	22	1	63
幼教2年	5	20	23	5	53
幼教全体	19	46	45	6	116
国際1年	4	10	9	4	27
国際2年	6	12	8	2	28
国際全体	10	22	17	6	55
短大全体	29	68	62	12	171



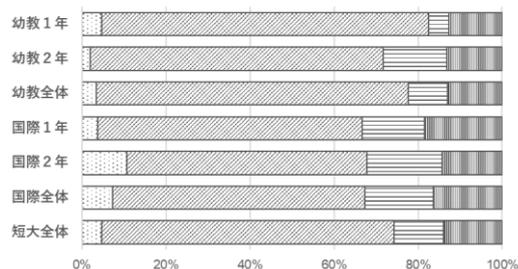
6. 学校以外の勉強（資格、語学、進学準備など）

	行わない	週に数日	週の半分	ほとんど毎日	合計
幼教1年	40	17	1	5	63
幼教2年	28	21	3	1	53
幼教全体	68	38	4	6	116
国際1年	6	15	3	3	27
国際2年	10	15	1	2	28
国際全体	16	30	4	5	55
短大全体	84	68	8	11	171



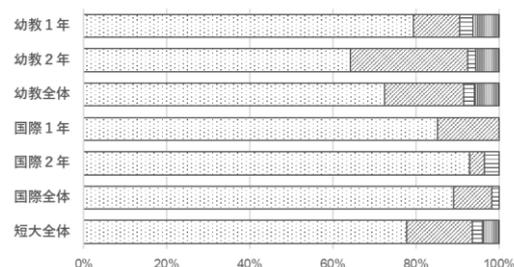
7. 友達と遊んだり、趣味などプライベートな活動

	行わない	週に数日	週の半分	ほとんど毎日	合計
幼教1年	3	49	3	8	63
幼教2年	1	37	8	7	53
幼教全体	4	86	11	15	116
国際1年	1	17	4	5	27
国際2年	3	16	5	4	28
国際全体	4	33	9	9	55
短大全体	8	119	20	24	171



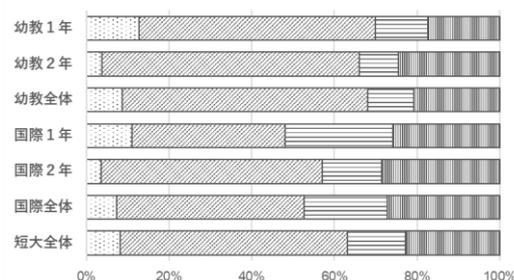
8. 親・兄弟などの介護や世話

	行わない	週に数日	週の半分	ほとんど毎日	合計
幼教1年	50	7	2	4	63
幼教2年	34	15	1	3	53
幼教全体	84	22	3	7	116
国際1年	23	4	0	0	27
国際2年	26	1	1	0	28
国際全体	49	5	1	0	55
短大全体	133	27	4	7	171



9. 家事（家の手伝い、一人暮らしの炊事など）

	行わない	週に数日	週の半分	ほとんど毎日	合計
幼教1年	8	36	8	11	63
幼教2年	2	33	5	13	53
幼教全体	10	69	13	24	116
国際1年	3	10	7	7	27
国際2年	1	15	4	8	28
国際全体	4	25	11	15	55
短大全体	14	94	24	39	171



【クラブ・サークル】については、両学科ともに行っていない者が最も多かったものの、幼児教育科は週に数日以上活動している者もおり、サークル長などを担う2年生においては頻りに活動する者が含まれた。【清泉祭の企画運営】においても、行わない者が最も多い割合を占めたが、幼児教育科の学生は週に数日以上活動している傾向にある。これは表現発表会や学年・クラス単位での清泉祭への参加があるためであろう。【学生会】や【ボランティア】においても同様の傾向が見られた。【アルバイト】については、両学科とも週に数日行っている学生が最も多く、次いで週の半分行う学生がいた。【学校以外の勉強】では、幼児教育科が行わない、週に数日、の順に高い割合を占めたが、国際コミュニケーション科では週に数日、行わない、の順となっており、学外での学びの意欲の差異が認められる。【友人と遊ぶ・趣味】では両学科とも週に数日と答える学生が大部分を占めた。【親兄弟の介護や世話】については、両学科ともに行わない大部分を占める者の、週に数日、ケアラーとしての役割が求められる学生は一定数おり、特に、幼児教育科の学生はほとんど毎日ケアにあたる学生も含まれており、その数は決して少ないとは言えない。【家事】については、両学科ともに、週に数日行う学生が最も多いものの、ほとんどの学生が何らかの家事を一定程度行っていることがわかった。

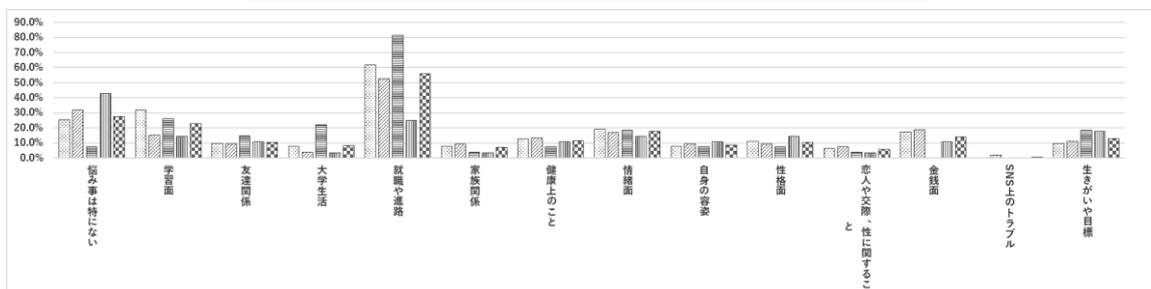
④悩みや悩んだ時の相談先に関する項目

(Q6) 現在の悩み事

設問6では、現在の悩み事で当てはまるものを複数回答可で尋ねた。悩み事の種類としては、【学習面】【友達関係】【大学生活】【就職や進路】【家族関係】【健康上のこと】【情緒面】【自身の容姿】【性格面】【恋人や交際、性に関すること】【金銭面】【SNS上のトラブル】【生きがいや目標】の13項目に加え、【悩み事は特にない】という選択肢も設けた。短期大学の学科・学年ごと、及び短大全体を集計し、それぞれの項目に対する回答の人数を上の表に、回答の割合（パーセンテージ）を下の図に記載する。

対象者層	悩み事は特にない	学習面	友達関係	大学生活	就職や進路	家族関係	健康上のこと	情緒面	自身の容姿	性格面	恋人や交際、性に関すること	金銭面	SNS上のトラブル	生きがいや目標
幼教1年	16	20	6	5	39	5	8	12	5	7	4	11	0	6
幼教2年	17	8	5	2	28	5	7	9	5	5	4	10	1	6
幼教全体	33	28	11	7	67	10	15	21	10	12	8	21	1	12
国際1年	2	7	4	6	22	1	2	5	2	2	1	0	0	5
国際2年	12	4	3	1	7	1	3	4	3	4	1	3	0	5
国際全体	14	11	7	7	29	2	5	9	5	6	2	3	0	10
短大全体	47	39	18	14	96	12	20	30	15	18	10	24	1	22

凡例： ■ 幼教1年 ■ 幼教2年 ■ 国際1年 ■ 国際2年 ■ 短大全体

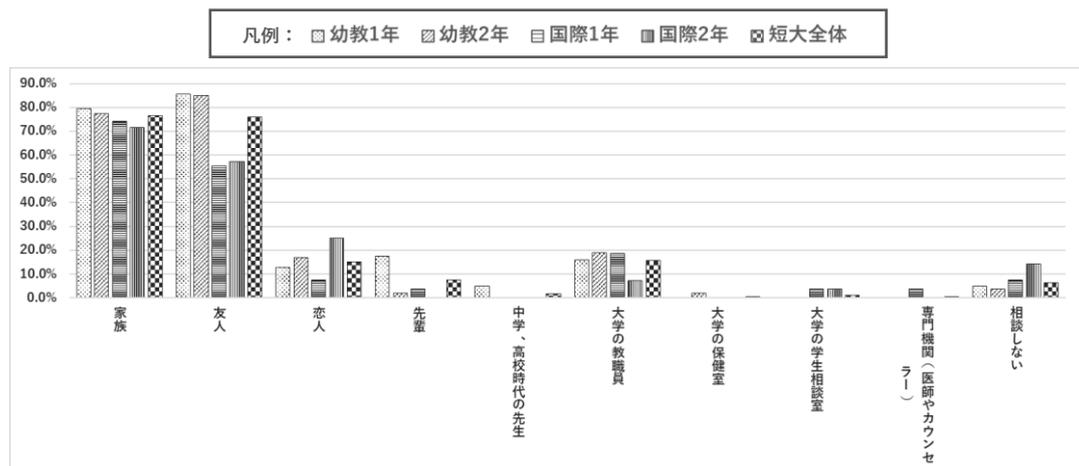


現在の悩み事については、幼児教育科の学生は【就職や進路】【学習面】【情緒面】【金銭面】などへの回答が多かった。国際コミュニケーション科の学生は、【就職や進路】以外では回答にバラつきがあり、【学習面】【生きがいや目標】に悩みを抱える学生がいた。しかしながら両学科ともに【悩み事は特にない】とする学生は少なくなく、悩みがある学生が複数の悩みを抱える傾向がみられる。

(Q7) 悩みや問題にぶつかった時、主に相談する先

設問7では、悩みや問題にぶつかった時、主に相談する先について尋ねた。相談先としては、【家族】【友人】【恋人】【先輩】【中学・高校時代の先生】【大学の教職員】【大学の保健室】【大学の学生相談室】【専門機関（医師やカウンセラー）】の9項目に加え、【相談しない】という選択肢も設けた。短期大学の学科・学年ごと、及び短大全体を集計し、それぞれの項目に対する回答の人数を上の表に、回答の割合（パーセンテージ）を下図に記載する。

対象者層	家族	友人	恋人	先輩	中学、高校時代の先生	大学の教職員	大学の保健室	大学の学生相談室	専門機関（医師やカウンセラー）	相談しない
幼教1年	50	54	8	11	3	10	0	0	0	3
幼教2年	41	45	9	1	0	10	1	0	0	2
幼教全体	91	99	17	12	3	20	1	0	0	5
国際1年	20	15	2	1	0	5	0	1	1	2
国際2年	20	16	7	0	0	2	0	1	0	4
国際全体	40	31	9	1	0	7	0	2	1	6
短大全体	131	130	26	13	3	27	1	2	1	11



主に相談する先については、両学科ともに【家族】と【友人】が大多数を占めた。幼児教育科の学生は、より【友人】に相談する者の割合が高く、国際コミュニケーション科の学生は、より【家族】に相談する者の割合が高かった。また、【大学の教職員】や【恋人】に相談する者も一定数おり、学生にとって教職員の存在は公私にわたって重要であると考えられる。幼児教育科の学生は、このほかに【先輩】に相談する者、国際コミュニケーション科の学生は【大学の学生相談室】に相談する者などもおり、学内外を問わず、幅広い人間関係を維持できるようにしていくことは重要であろう。

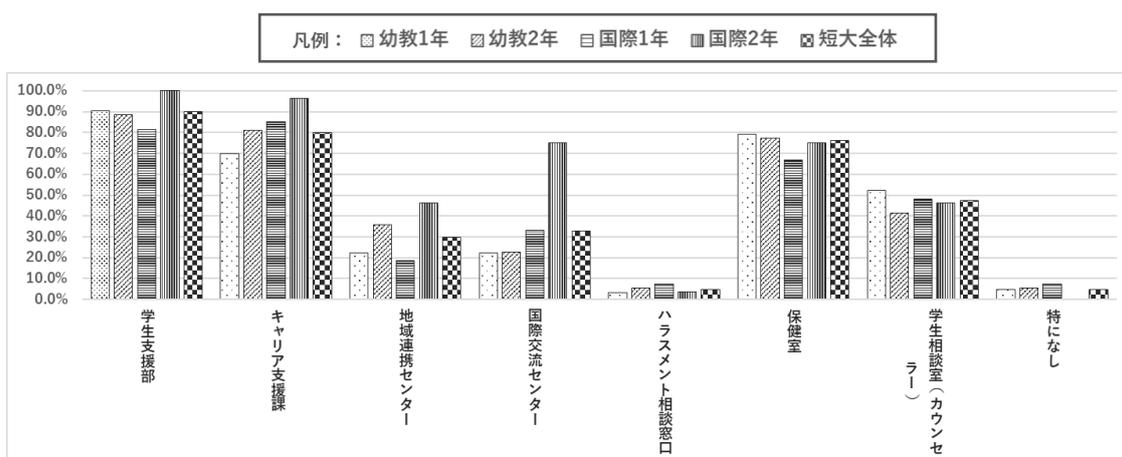
（2）相談窓口・施設設備関連について問う項目

①学内の相談窓口の認知に関する項目

（Q8）学内の相談窓口の認知度

設問 8 では、大学・短大にある各種相談窓口のうち、知っているものについて尋ねた。相談窓口としては、【学生支援部】【キャリア支援課】【地域連携センター】【国際交流センター】【ハラスメント相談窓口】【保健室】【学生相談室（カウンセラー）】の 7 項目に加え、【特になし】という選択肢も設けた。回答が設問項目の表示順序による影響を受けないよう、設問はランダム化した。短期大学の学科・学年ごと、及び短大全体を集計し、それぞれの項目に対する回答の人数を上表に、回答の割合（パーセンテージ）を下図に記載する。

対象者層	学生支援部	キャリア支援課	地域連携センター 国際交流センター	国際交流センター	ハラスメント 相談窓口	保健室	学生相談室 (カウンセラー)	特になし
幼教1年	57	44	14	14	2	50	33	3
幼教2年	47	43	19	12	3	41	22	3
幼教全体	104	87	33	26	5	91	55	6
国際1年	22	23	5	9	2	18	13	2
国際2年	28	27	13	21	1	21	13	0
国際全体	50	50	18	30	3	39	26	2
短大全体	154	137	51	56	8	130	81	8



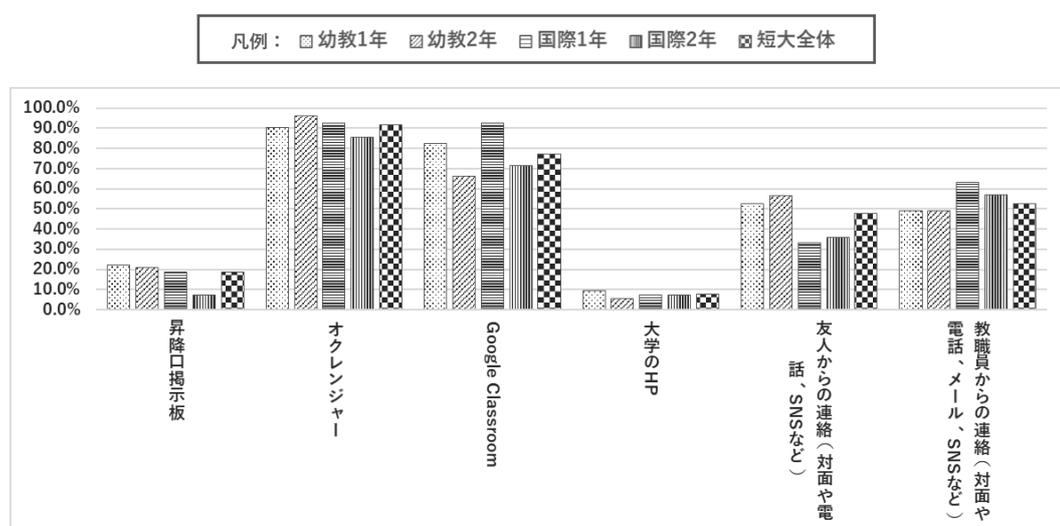
学内の相談窓口の認知度については、【学生支援部】【キャリア支援課】【保健室】については、両学科ともにほとんどの学生が認知していた。また、【学生相談室(カウンセラー)】【地域連携センター】【国際交流センター】についても認知している学生は多かったものの、【ハラスメント相談窓口】については、まだまだ周知が足りないものと考えられる。問題となる事案が生じていないことにより、その必要性のなさから認知が進んでいない可能性も考えうるが、学生が自身を守る手段を知っておくことは非常に重要であることから、一層の周知が求められよう。

②本学からの連絡を受け取る手段に関する項目

(Q9) 本学からの連絡を受け取る手段

設問 9 では、大学・短大からの連絡・情報を主に何から得ているかを尋ねた。選択肢としては、【昇降口掲示板】【オクレンジャー】【Google Classroom】【大学の HP】【友人からの連絡】【教職員からの連絡】の 6 項目を設けた。回答が設問項目の表示順序による影響を受けないよう、設問はランダム化した。短期大学の学科・学年ごと、及び短大全体を集計し、それぞれの項目に対する回答の人数を上表に、回答の割合(パーセンテージ)を下図に記載する。

対象者層	昇降口掲示板	オクレンジャー	Google Classroom	大学のHP	友人からの連絡 (対面や電話、SNSなど)	教職員からの連絡 (対面や電話、メール、SNSなど)
幼教1年	14	57	52	6	33	31
幼教2年	11	51	35	3	30	26
幼教全体	25	108	87	9	63	57
国際1年	5	25	25	2	9	17
国際2年	2	24	20	2	10	16
国際全体	7	49	45	4	19	33
短大全体	32	157	132	13	82	90



本学からの連絡を受け取る手段については、【Google Classroom】が浸透し始めているものの、【オクレンジャー】【昇降口掲示板】の利用者もいることがわかった。公的な通達で連絡が付かない等の状況をフォローするフォーマル・インフォーマルな人的つながりによる【友人からの連絡】【教職員からの連絡】といった連絡手段を必要とする学生も一定数いる。

③施設設備の利用に関する項目

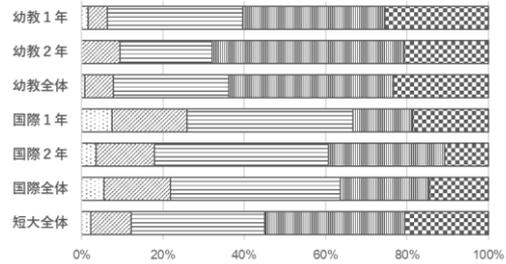
(Q10) 授業時間外の施設設備の利用

設問10では、授業時間外に大学の施設・設備として【図書館】【自習室等】【情報処理室】【実習演習設備】【食堂】【生協】【体育館】【ホール等くつろぎの空間】【空き教室】【保健室】をどの程度利用しているかを尋ねた。回答が設問項目の表示順序による影響を受けないよう、設問はランダム化した。回答方法は、「ほぼ毎日」「よく」「たまに」「ほとんど利用しない」「全く利用しない」の5件法である。短期大学の学科・学年ごと、及び短大全体を集計し、それぞれの項目に対する回答の人数を左側の表に、回答の割合（パーセンテージ）を右側の図に記載する。

凡例： □ ほぼ毎日 ▨ よく □ たまに ▨ ほとんど利用しない ▨ 全く利用しない

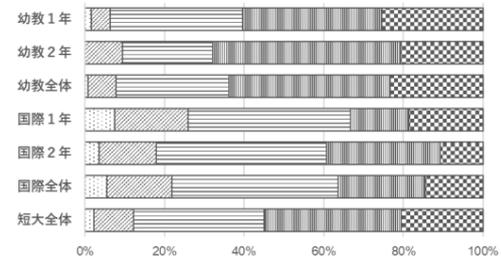
1. 図書館設備

	ほぼ毎日	よく	たまに	ほとんど利用しない	全く利用しない	合計
幼教1年	1	4	32	19	7	63
幼教2年	1	13	25	13	1	53
幼教全体	2	17	57	32	8	116
国際1年	4	10	7	4	2	27
国際2年	1	9	12	4	2	28
国際全体	5	19	19	8	4	55
短大全体	7	36	76	40	12	171



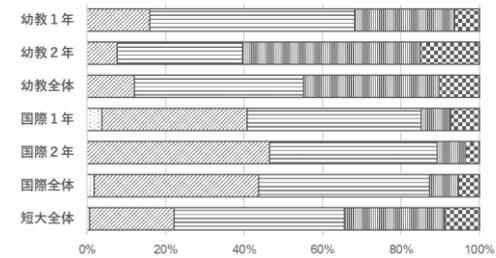
2. 自習室等、自主的な学習環境

	ほぼ毎日	よく	たまに	ほとんど利用しない	全く利用しない	合計
幼教1年	1	3	21	22	16	63
幼教2年	0	5	12	25	11	53
幼教全体	1	8	33	47	27	116
国際1年	2	5	11	4	5	27
国際2年	1	4	12	8	3	28
国際全体	3	9	23	12	8	55
短大全体	4	17	56	59	35	171



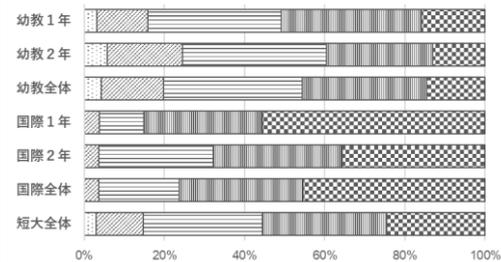
3. 情報処理室

	ほぼ毎日	よく	たまに	ほとんど利用しない	全く利用しない	合計
幼教1年	0	10	33	16	4	63
幼教2年	0	4	17	24	8	53
幼教全体	0	14	50	40	12	116
国際1年	1	10	12	2	2	27
国際2年	0	13	12	2	1	28
国際全体	1	23	24	4	3	55
短大全体	1	37	74	44	15	171



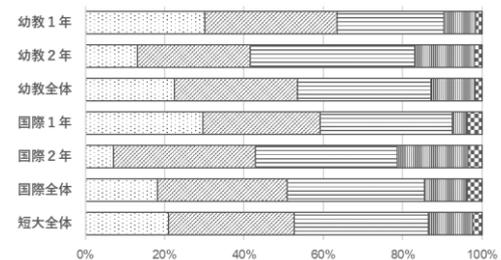
4. 実習・演習のための教室・設備

	ほぼ毎日	よく	たまに	ほとんど利用しない	全く利用しない	合計
幼教1年	2	8	21	22	10	63
幼教2年	3	10	19	14	7	53
幼教全体	5	18	40	36	17	116
国際1年	0	1	3	8	15	27
国際2年	0	1	8	9	10	28
国際全体	0	2	11	17	25	55
短大全体	5	20	51	53	42	171



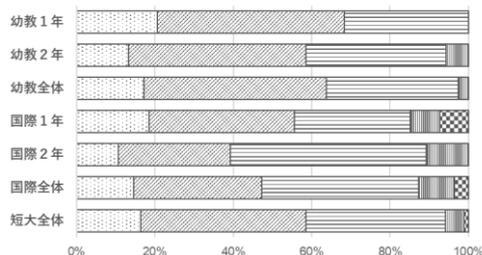
5. 食堂

	ほぼ毎日	よく	たまに	ほとんど利用しない	全く利用しない	合計
幼教1年	19	21	17	5	1	63
幼教2年	7	15	22	8	1	53
幼教全体	26	36	39	13	2	116
国際1年	8	8	9	1	1	27
国際2年	2	10	10	5	1	28
国際全体	10	18	19	6	2	55
短大全体	36	54	58	19	4	171



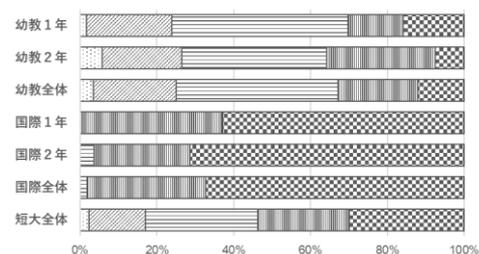
6. 生協

	ほぼ毎日	よく	たまに	ほとんど利用しない	全く利用しない	合計
幼教1年	13	30	20	0	0	63
幼教2年	7	24	19	3	0	53
幼教全体	20	54	39	3	0	116
国際1年	5	10	8	2	2	27
国際2年	3	8	14	3	0	28
国際全体	8	18	22	5	2	55
短大全体	28	72	61	8	2	171



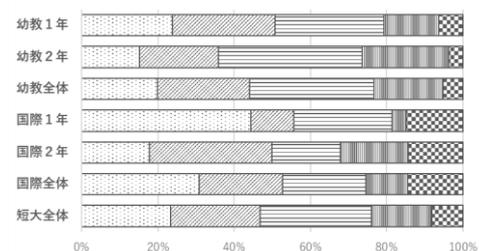
7. 体育館や運動設備

	ほぼ毎日	よく	たまに	ほとんど利用しない	全く利用しない	合計
幼教1年	1	14	29	9	10	63
幼教2年	3	11	20	15	4	53
幼教全体	4	25	49	24	14	116
国際1年	0	0	0	10	17	27
国際2年	0	0	1	7	20	28
国際全体	0	0	1	17	37	55
短大全体	4	25	50	41	51	171



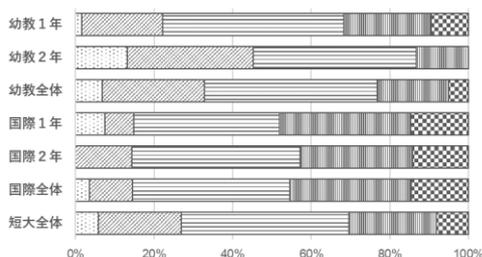
8. ホール等くつろぎの空間

	ほぼ毎日	よく	たまに	ほとんど利用しない	全く利用しない	合計
幼教1年	15	17	18	9	4	63
幼教2年	8	11	20	12	2	53
幼教全体	23	28	38	21	6	116
国際1年	12	3	7	1	4	27
国際2年	5	9	5	5	4	28
国際全体	17	12	12	6	8	55
短大全体	40	40	50	27	14	171



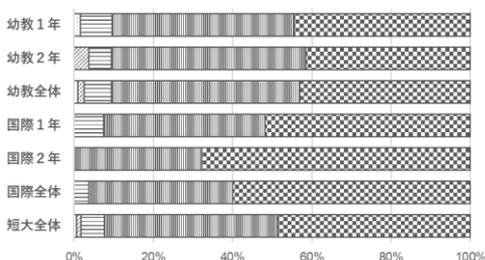
9. 空き教室

	ほぼ毎日	よく	たまに	ほとんど利用しない	全く利用しない	合計
幼教1年	1	13	29	14	6	63
幼教2年	7	17	22	7	0	53
幼教全体	8	30	51	21	6	116
国際1年	2	2	10	9	4	27
国際2年	0	4	12	8	4	28
国際全体	2	6	22	17	8	55
短大全体	10	36	73	38	14	171



10. 保健室

	ほぼ毎日	よく	たまに	ほとんど利用しない	全く利用しない	合計
幼教1年	1	0	5	29	28	63
幼教2年	0	2	3	26	22	53
幼教全体	1	2	8	55	50	116
国際1年	0	0	2	11	14	27
国際2年	0	0	0	9	19	28
国際全体	0	0	2	20	33	55
短大全体	1	2	10	75	83	171



施設・設備の利用頻度については、使用頻度に違いは見られるものの、【保健室】を除いておおむねどの施設も使用されていることがわかった。

④施設設備の満足度に関する項目

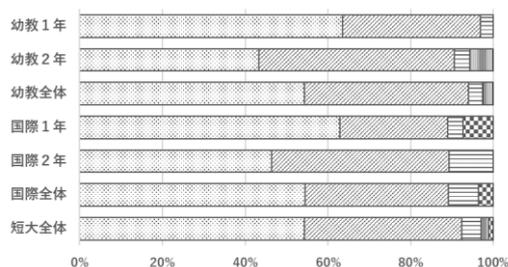
(Q11) 施設設備の満足度

設問 11 では、大学・短大の施設・設備のうち、【食堂や生協などの購買環境】【お手洗い】【図書館】【ホール等くつろぎの空間】【自習室等】【実習演習設備】【保健室】【情報処理室】【講義用教室と機器】【ICT 環境】【体育館】の満足度を尋ねた。回答方法は、「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」「利用しない」の 5 件法である。回答が設問項目の表示順序による影響を受けないよう、設問はランダム化した。短期大学の学科・学年ごと、及び短大全体を集計し、それぞれの項目に対する回答の人数を左側の表に、回答の割合（パーセンテージ）を右側の図に記載する。

凡例： 満足 やや満足 やや不満 不満 利用しない

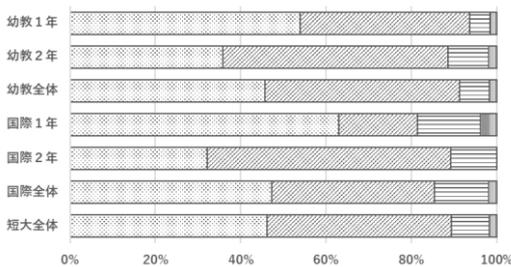
1. 食堂や生協などの購買環境

	満足	やや満足	やや不満	不満	利用しない	合計
幼教 1 年	40	21	2	0	0	63
幼教 2 年	23	25	2	3	0	53
幼教全体	63	46	4	3	0	116
国際 1 年	17	7	1	0	2	27
国際 2 年	13	12	3	0	0	28
国際全体	30	19	4	0	2	55
短大全体	93	65	8	3	2	171



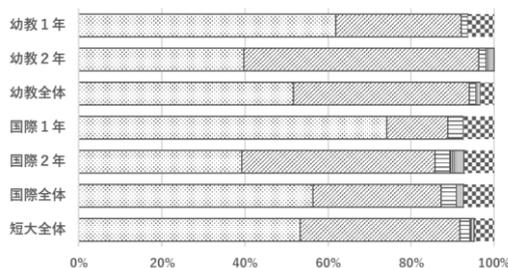
2. お手洗い

	満足	やや満足	やや不満	不満	利用しない	合計
幼教 1 年	34	25	3	1	0	63
幼教 2 年	19	28	5	1	0	53
幼教全体	53	53	8	2	0	116
国際 1 年	17	5	4	1	0	27
国際 2 年	9	16	3	0	0	28
国際全体	26	21	7	1	0	55
短大全体	79	74	15	3	0	171



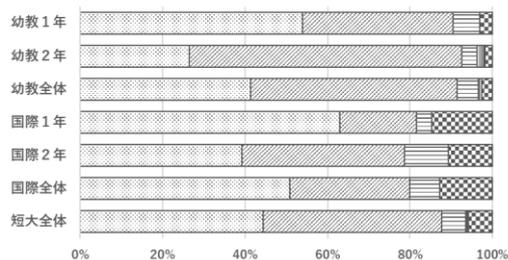
3. 図書館設備

	満足	やや満足	やや不満	不満	利用しない	合計
幼教 1 年	39	19	1	0	4	63
幼教 2 年	21	30	1	1	0	53
幼教全体	60	49	2	1	4	116
国際 1 年	20	4	1	0	2	27
国際 2 年	11	13	1	1	2	28
国際全体	31	17	2	1	4	55
短大全体	91	66	4	2	8	171



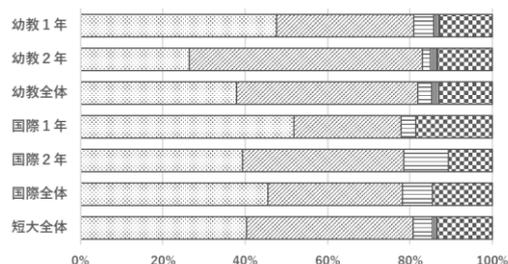
4. ホール等くつろぎの空間

	満足	やや満足	やや不満	不満	利用しない	合計
幼教1年	34	23	4	0	2	63
幼教2年	14	35	2	1	1	53
幼教全体	48	58	6	1	3	116
国際1年	17	5	1	0	4	27
国際2年	11	11	3	0	3	28
国際全体	28	16	4	0	7	55
短大全体	76	74	10	1	10	171



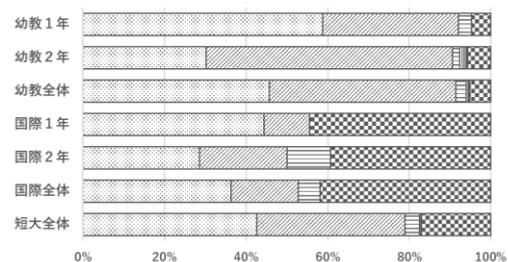
5. 自習室等、自主的な学習環境

	満足	やや満足	やや不満	不満	利用しない	合計
幼教1年	30	21	3	1	8	63
幼教2年	14	30	1	1	7	53
幼教全体	44	51	4	2	15	116
国際1年	14	7	1	0	5	27
国際2年	11	11	3	0	3	28
国際全体	25	18	4	0	8	55
短大全体	69	69	8	2	23	171



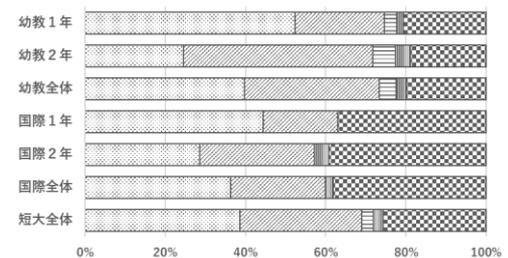
6. 実習・演習のための教室・設備

	満足	やや満足	やや不満	不満	利用しない	合計
幼教1年	37	21	2	0	3	63
幼教2年	16	32	1	1	3	53
幼教全体	53	53	3	1	6	116
国際1年	12	3	0	0	12	27
国際2年	8	6	3	0	11	28
国際全体	20	9	3	0	23	55
短大全体	73	62	6	1	29	171



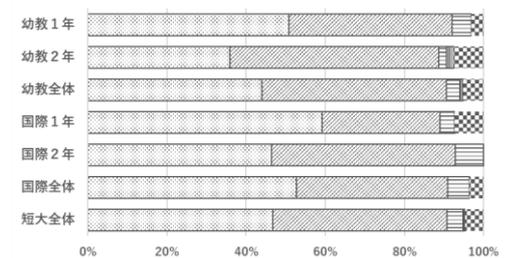
7. 保健室

	満足	やや満足	やや不満	不満	利用しない	合計
幼教1年	33	14	2	1	13	63
幼教2年	13	25	3	2	10	53
幼教全体	46	39	5	3	23	116
国際1年	12	5	0	0	10	27
国際2年	8	8	0	1	11	28
国際全体	20	13	0	1	21	55
短大全体	66	52	5	4	44	171



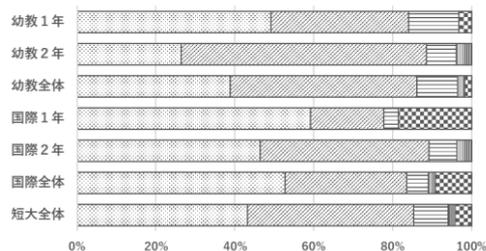
8. 情報処理室

	満足	やや満足	やや不満	不満	利用しない	合計
幼教1年	32	26	3	0	2	63
幼教2年	19	28	1	1	4	53
幼教全体	51	54	4	1	6	116
国際1年	16	8	1	0	2	27
国際2年	13	13	2	0	0	28
国際全体	29	21	3	0	2	55
短大全体	80	75	7	1	8	171



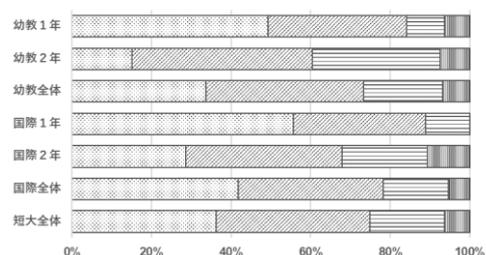
9. 講義用の教室とその教室機器

	満足	やや満足	やや不満	不満	利用しない	合計
幼教1年	31	22	8	0	2	63
幼教2年	14	33	4	2	0	53
幼教全体	45	55	12	2	2	116
国際1年	16	5	1	0	5	27
国際2年	13	12	2	1	0	28
国際全体	29	17	3	1	5	55
短大全体	74	72	15	3	7	171



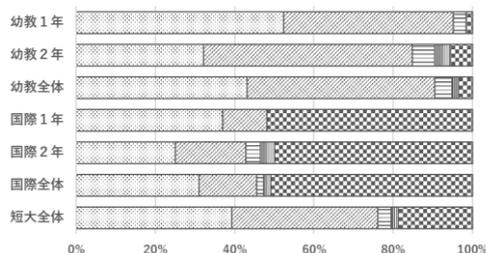
10. オクレンジャーや電子掲示板などの ICT 環境

	満足	やや満足	やや不満	不満	利用しない	合計
幼教1年	31	22	6	4	0	63
幼教2年	8	24	17	4	0	53
幼教全体	39	46	23	8	0	116
国際1年	15	9	3	0	0	27
国際2年	8	11	6	3	0	28
国際全体	23	20	9	3	0	55
短大全体	62	66	32	11	0	171



11. 体育館や運動設備

	満足	やや満足	やや不満	不満	利用しない	合計
幼教1年	33	27	2	0	1	63
幼教2年	17	28	3	2	3	53
幼教全体	50	55	5	2	4	116
国際1年	10	3	0	0	14	27
国際2年	7	5	1	1	14	28
国際全体	17	8	1	1	28	55
短大全体	67	63	6	3	32	171



施設・設備の満足度については、両学科ともに【食堂や生協などの購買環境】【お手洗い】【図書館】【ホール等くつろぎの空間】【自習室等】【情報処理室】【講義用教室と機器】【ICT 環境】の項目は、「満足」「やや満足」が大部分を占めた。国際コミュニケーション科の学生の利用しない者が半数近い【実習演習設備】【体育館】も利用者に占める「満足」「やや満足」の割合は高かった。また、両学科の学生ともに利用しない者が一定数いる【保健室】も満足度は高かった。

(3) 教育体制・各部署の対応について問う項目

①教育体制への満足度に関する項目

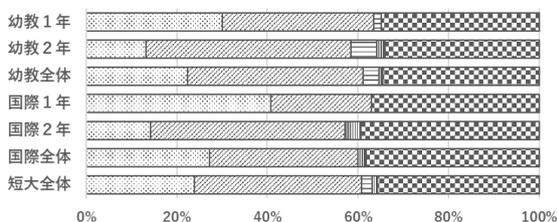
(Q12) 教育体制に対する満足度

設問12では、本学の教育体制について、【地域連携体制】【所属学科の課外活動】【キャリア支援体制】【所属する科やコースのカリキュラム】【カウンセリングなどの相談体制】【担任やメンター教員の制度】【オフィスアワー】【海外留学支援体制】の満足度を尋ねた。回答が設問項目の表示順序による影響を受けないよう、設問はランダム化した。回答方法は、「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」「利用しない」の5件法である。短期大学の学科・学年ごと、及び短大全体を集計し、それぞれの項目に対する回答の人数を左側の表に、回答の割合（パーセンテージ）を右側の図に記載する。

凡例： 満足 やや満足 やや不満 不満 利用しない

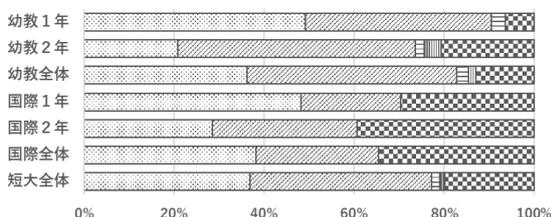
1. 地域連携体制（地域活動、ボランティア等）

	満足	やや満足	やや不満	不満	利用しない	合計
幼教1年	19	21	1	0	22	63
幼教2年	7	24	3	1	18	53
幼教全体	26	45	4	1	40	116
国際1年	11	6	0	0	10	27
国際2年	4	12	0	1	11	28
国際全体	15	18	0	1	21	55
短大全体	41	63	4	2	61	171



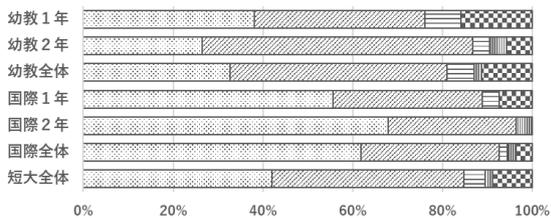
2. 所属学科の課外活動（フィールドワーク等）

	満足	やや満足	やや不満	不満	利用しない	合計
幼教1年	31	26	2	0	4	63
幼教2年	11	28	1	2	11	53
幼教全体	42	54	3	2	15	116
国際1年	13	6	0	0	8	27
国際2年	8	9	0	0	11	28
国際全体	21	15	0	0	19	55
短大全体	63	69	3	2	34	171



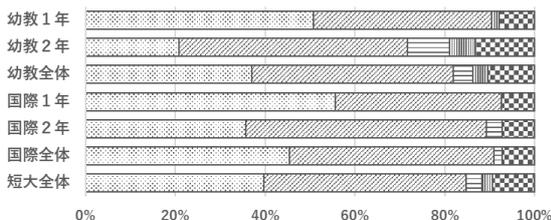
3. キャリア支援体制（就職活動支援、キャリアセミナー等）

	満足	やや満足	やや不満	不満	利用しない	合計
幼教1年	24	24	5	0	10	63
幼教2年	14	32	2	2	3	53
幼教全体	38	56	7	2	13	116
国際1年	15	9	1	0	2	27
国際2年	19	8	0	1	0	28
国際全体	34	17	1	1	2	55
短大全体	72	73	8	3	15	171



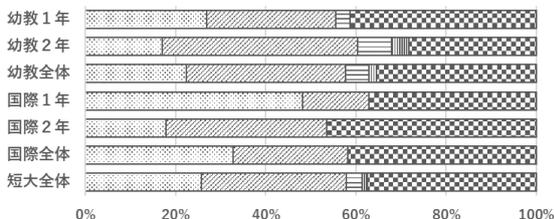
4. 所属する科やコースのカリキュラム

	満足	やや満足	やや不満	不満	利用しない	合計
幼教1年	32	25	0	1	5	63
幼教2年	11	27	5	3	7	53
幼教全体	43	52	5	4	12	116
国際1年	15	10	0	0	2	27
国際2年	10	15	1	0	2	28
国際全体	25	25	1	0	4	55
短大全体	68	77	6	4	16	171



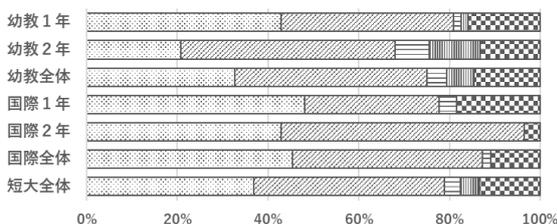
5. カウンセリングなどの相談体制

	満足	やや満足	やや不満	不満	利用しない	合計
幼教1年	17	18	2	0	26	63
幼教2年	9	23	4	2	15	53
幼教全体	26	41	6	2	41	116
国際1年	13	4	0	0	10	27
国際2年	5	10	0	0	13	28
国際全体	18	14	0	0	23	55
短大全体	44	55	6	2	64	171



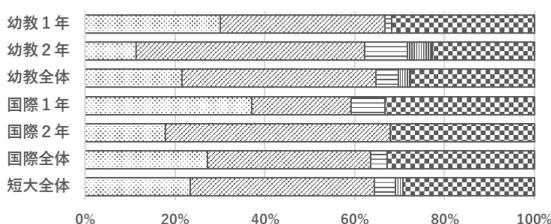
6. 担任やメンター教員の制度

	満足	やや満足	やや不満	不満	利用しない	合計
幼教1年	27	24	1	1	10	63
幼教2年	11	25	4	6	7	53
幼教全体	38	49	5	7	17	116
国際1年	13	8	1	0	5	27
国際2年	12	15	0	0	1	28
国際全体	25	23	1	0	6	55
短大全体	63	72	6	7	23	171



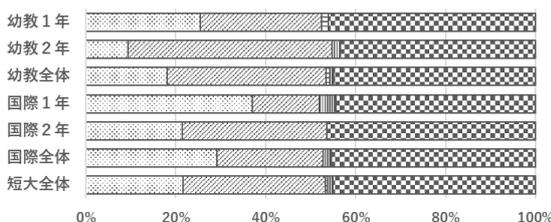
7. オフィスアワー

	満足	やや満足	やや不満	不満	利用しない	合計
幼教1年	19	23	1	0	20	63
幼教2年	6	27	5	3	12	53
幼教全体	25	50	6	3	32	116
国際1年	10	6	2	0	9	27
国際2年	5	14	0	0	9	28
国際全体	15	20	2	0	18	55
短大全体	40	70	8	3	50	171



8. 海外留学支援体制

	満足	やや満足	やや不満	不満	利用しない	合計
幼教1年	16	17	1	0	29	63
幼教2年	5	24	0	1	23	53
幼教全体	21	41	1	1	52	116
国際1年	10	4	0	1	12	27
国際2年	6	9	0	0	13	28
国際全体	16	13	0	1	25	55
短大全体	37	54	1	2	77	171



本学の教育体制については、利用しない者を除くと、どの教育体制も「満足」「やや満足」の割合が高かった。

②各部署の対応の適切さに関する項目

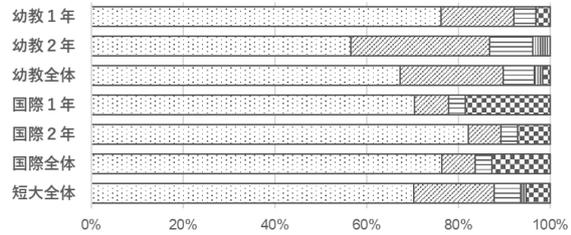
(Q13) 各部署の対応の適切さについて

設問13では、本学に設置されている部署である【学生支援部】【キャリア支援課】【地域連携センター】【国際交流センター】【システム室】【総務部】【入試広報部】【図書館(上野・東口)】【保健室】【東口事務部】の対応の適切さについて尋ねた。回答が設問項目の表示順序による影響を受けないよう、設問はランダム化した。回答方法は、「適切」「わりと適切」「やや不適切」「不適切」「利用経験なし」の5件法である。短期大学の学科・学年ごと、及び短大全体を集計し、それぞれの項目に対する回答の人数を左側の表に、回答の割合(パーセンテージ)を右側の図に記載する。

凡例： □適切 ▨わりと適切 ▩やや不適切 ■不適切 ▤利用経験なし

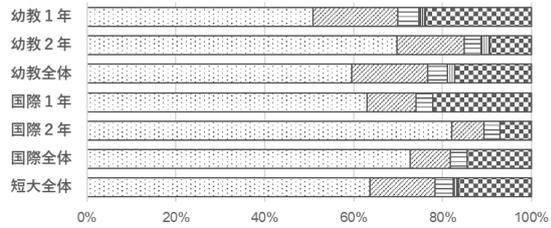
1. 学生支援部（教務課・学生課）【履修登録、定期試験、実習関係、奨学金、生活相談等】

	適切	わりと適切	やや不適切	不適切	利用経験なし	合計
幼教1年	48	10	3	0	2	63
幼教2年	30	16	5	2	0	53
幼教全体	78	26	8	2	2	116
国際1年	19	2	1	0	5	27
国際2年	23	2	1	0	2	28
国際全体	42	4	2	0	7	55
短大全体	120	30	10	2	9	171



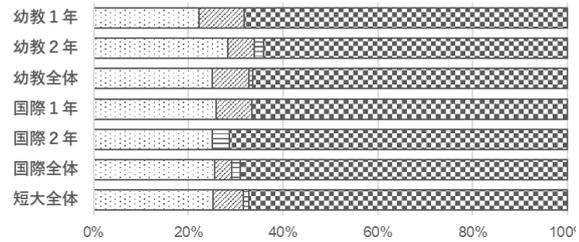
2. 学生支援部（キャリア支援課）【相談、情報提供、各種セミナー、ガイダンス等】

	適切	わりと適切	やや不適切	不適切	利用経験なし	合計
幼教1年	32	12	3	1	15	63
幼教2年	37	8	2	1	5	53
幼教全体	69	20	5	2	20	116
国際1年	17	3	1	0	6	27
国際2年	23	2	1	0	2	28
国際全体	40	5	2	0	8	55
短大全体	109	25	7	2	28	171



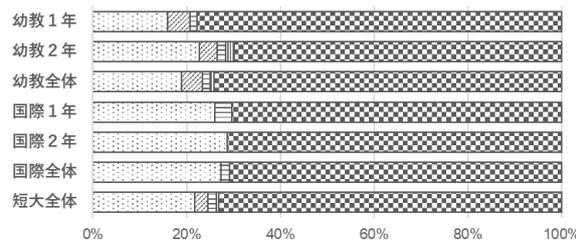
3. 地域連携センター【ボランティア等】

	適切	わりと適切	やや不適切	不適切	利用経験なし	合計
幼教1年	14	6	0	0	43	63
幼教2年	15	3	1	0	34	53
幼教全体	29	9	1	0	77	116
国際1年	7	2	0	0	18	27
国際2年	7	0	1	0	20	28
国際全体	14	2	1	0	38	55
短大全体	43	11	2	0	115	171



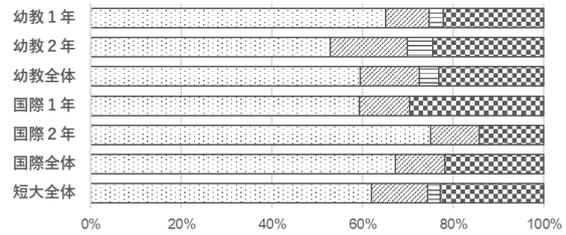
4. 国際交流センター【国際交流等】

	適切	わりと適切	やや不適切	不適切	利用経験なし	合計
幼教1年	10	3	1	0	49	63
幼教2年	12	2	1	1	37	53
幼教全体	22	5	2	1	86	116
国際1年	7	0	1	0	19	27
国際2年	8	0	0	0	20	28
国際全体	15	0	1	0	39	55
短大全体	37	5	3	1	125	171



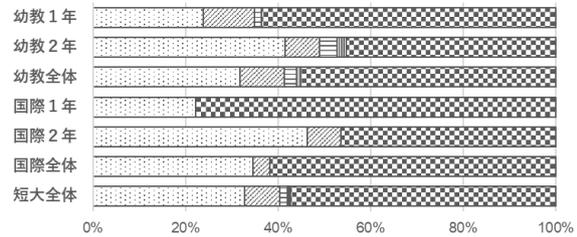
5. システム室【コンピュータ関係】

	適切	わりと適切	やや不適切	不適切	利用経験なし	合計
幼教1年	41	6	2	0	14	63
幼教2年	28	9	3	0	13	53
幼教全体	69	15	5	0	27	116
国際1年	16	3	0	0	8	27
国際2年	21	3	0	0	4	28
国際全体	37	6	0	0	12	55
短大全体	106	21	5	0	39	171



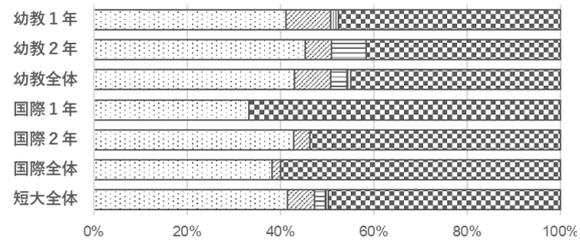
6. 総務部(M館1階の総務課・管財課、経理課)【備品借用、集金等】

	適切	わりと適切	やや不適切	不適切	利用経験なし	合計
幼教1年	15	7	1	0	40	63
幼教2年	22	4	2	1	24	53
幼教全体	37	11	3	1	64	116
国際1年	6	0	0	0	21	27
国際2年	13	2	0	0	13	28
国際全体	19	2	0	0	34	55
短大全体	56	13	3	1	98	171



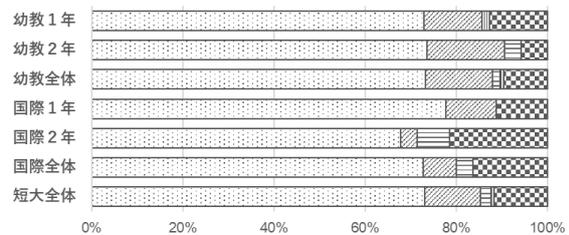
7. 入試広報部【オープンキャンパス手伝い・大学案内作成等】

	適切	わりと適切	やや不適切	不適切	利用経験なし	合計
幼教1年	26	6	0	1	30	63
幼教2年	24	3	4	0	22	53
幼教全体	50	9	4	1	52	116
国際1年	9	0	0	0	18	27
国際2年	12	1	0	0	15	28
国際全体	21	1	0	0	33	55
短大全体	71	10	4	1	85	171



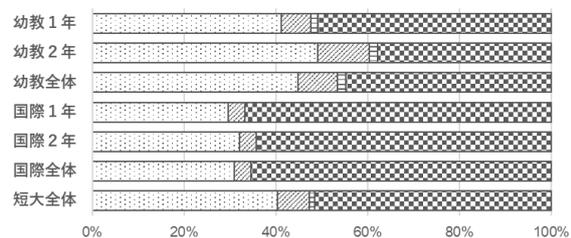
8. 図書館(上野・東口)【図書・DVD利用方法、利用時間、貸出し、機器の説明等】

	適切	わりと適切	やや不適切	不適切	利用経験なし	合計
幼教1年	46	8	0	1	8	63
幼教2年	39	9	2	0	3	53
幼教全体	85	17	2	1	11	116
国際1年	21	3	0	0	3	27
国際2年	19	1	2	0	6	28
国際全体	40	4	2	0	9	55
短大全体	125	21	4	1	20	171



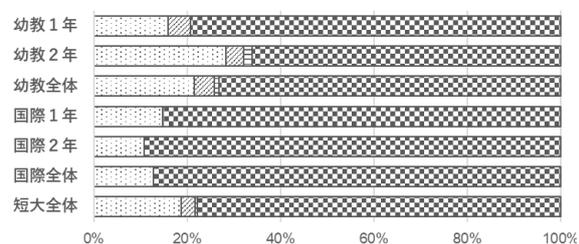
9. 保健室

	適切	わりと適切	やや不適切	不適切	利用困難なし	合計
幼教1年	26	4	1	0	32	63
幼教2年	26	6	1	0	20	53
幼教全体	52	10	2	0	52	116
国際1年	8	1	0	0	18	27
国際2年	9	1	0	0	18	28
国際全体	17	2	0	0	36	55
短大全体	69	12	2	0	88	171



10. 東口事務部

	適切	わりと適切	やや不適切	不適切	利用困難なし	合計
幼教1年	10	3	0	0	50	63
幼教2年	15	2	1	0	35	53
幼教全体	25	5	1	0	85	116
国際1年	4	0	0	0	23	27
国際2年	3	0	0	0	25	28
国際全体	7	0	0	0	48	55
短大全体	32	5	1	0	133	171



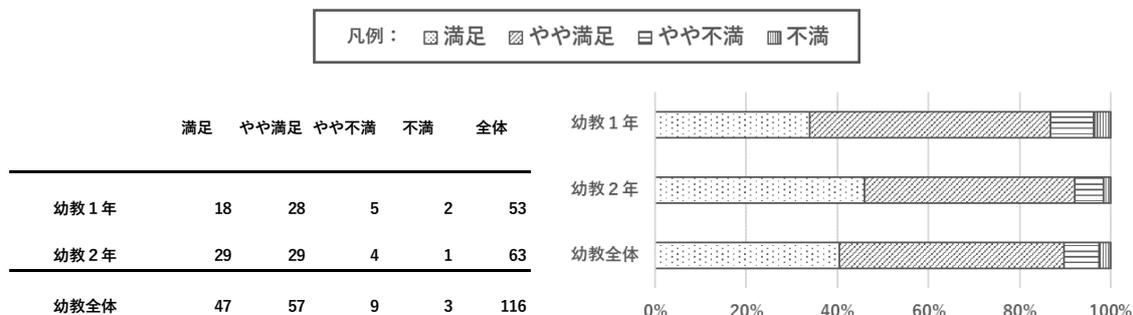
3. アンケートの集計（学科）

次に、学科ごと（幼児教育科・国際コミュニケーション科）で調査を行った設問について、それぞれの設問の内容と回答の集計の概要を報告する。

（1） 幼児教育科

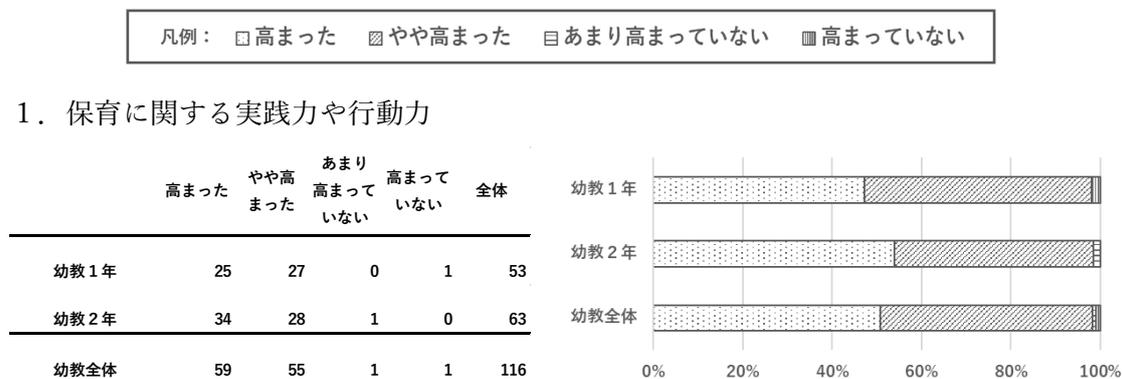
（Q1） 保育者養成に関する教材について

設問 1 では、保育者養成に関する授業で使用する教材の満足度について尋ねた。回答方法は、「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」の 4 件法である。学年ごと及び全体の回答人数の表を左側に、回答の割合（パーセンテージ）を右側の図に記載する。



（Q2） この 1 年での自身の振り返りについて

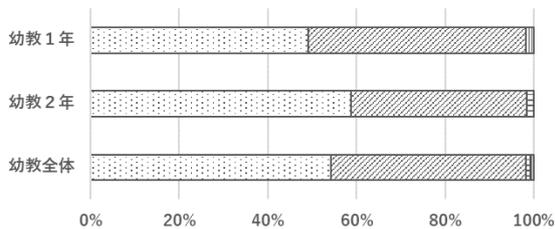
設問 2 では、【保育に関する実践力や行動力】【保育に関する表現力や想像力、感性】【保育者としての主体性や自己学習の力】【保育に必要なコミュニケーション力や協調性】の 4 項目について、1 年間でどの程度高まったと思うかについて尋ねた。回答方法は、「高まった」「やや高まった」「あまり高まっていない」「高まっていない」の 4 件法である。学年ごと及び全体の回答人数の表を左側に、回答の割合（パーセンテージ）を右側の図に記載する。



1. 保育に関する実践力や行動力

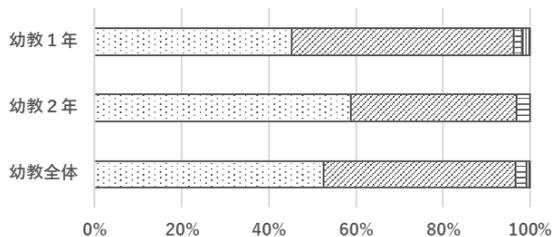
2. 保育に関する表現力や創造力、感性

	高まった	やや高 まった	あまり 高まって いない	高まって いない	全体
幼教1年	26	26	0	1	53
幼教2年	37	25	1	0	63
幼教全体	63	51	1	1	116



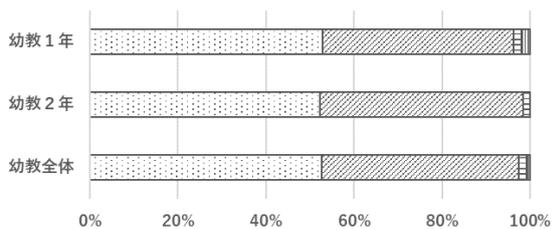
3. 保育者としての主体性や自己学習の力

	高まった	やや高 まった	あまり 高まって いない	高まって いない	全体
幼教1年	24	27	1	1	53
幼教2年	37	24	2	0	63
幼教全体	61	51	3	1	116



4. 保育に必要なコミュニケーション力や協調性

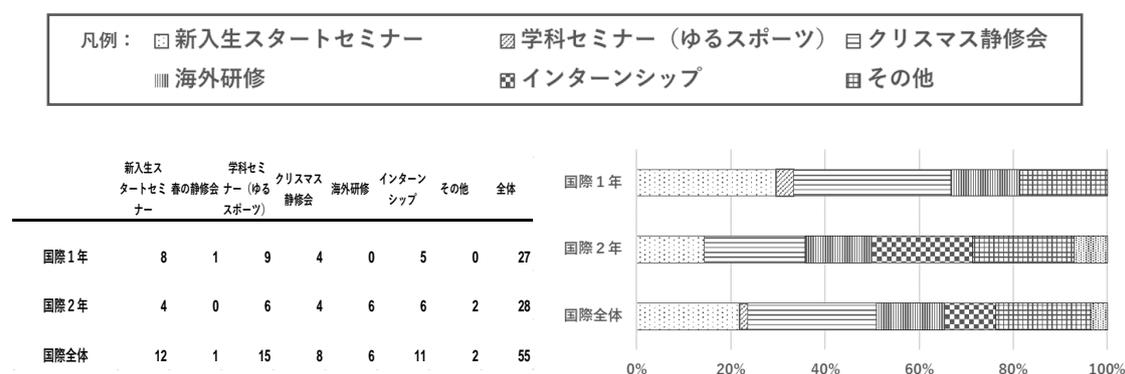
	高まった	やや高 まった	あまり 高まって いない	高まって いない	全体
幼教1年	28	23	1	1	53
幼教2年	33	29	1	0	63
幼教全体	61	52	2	1	116



(2) 国際コミュニケーション科

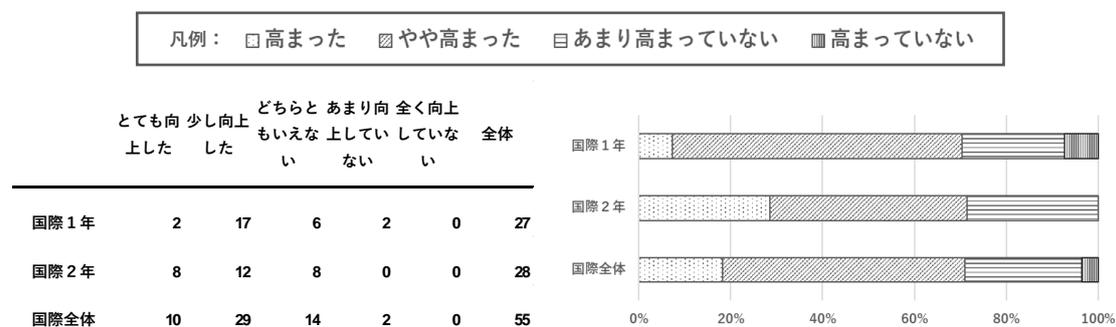
(Q1) 授業時間外の取り組みで、もっとも良かったと思うもの

設問 1 では、学科中心に行った授業時間外の取り組みで、もっとも良かったと思うものを 1 つ尋ねた。選択肢は【新入生スタートセミナー】【学科セミナー（ゆるスポーツ）】【クリスマス静修会】【海外研修】【インターンシップ】【その他】の 6 つを設定した。学年ごと及び全体の回答人数の表を左側に、回答の割合（パーセンテージ）を右側の図に記載する。



(Q2) 社会人基礎力（清泉スピリット5つの力）の向上について

設問 2 では、入学してから社会人基礎力（清泉スピリット 5 つの力：問題を発見する力、考える力、工夫する力、コミュニケーションする力、行動する力）は高まったかについて尋ねた。回答方法は、「高まった」「やや高まった」「あまり高まっていない」「高まっていない」の 4 件法である。学年ごと及び全体の回答人数の表を左側に、回答の割合（パーセンテージ）を右側の図に記載する。



(Q3) 社会人基礎力（清泉スピリット 5 つの力）の向上に特に役立つと考える授業や授業外経験

設問 3 では、社会人基礎力（清泉スピリット 5 つの力）の向上に特に役立つと考える授業や授業外経験について、自由記述で回答を求めた。学年別の内容のまとめを以下の表に記載する。

	自由記述	学科からの回答
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 語学 ・ インターンシップ ・ 1年生の必修科目は全て、これらの力が育つ手助けになった ・ インターナショナルカフェや、実践的な英語系の授業が役立った ・ 授業内で実際に体験したことをもとに改善点やよかったこと、さらに良くするためにどんなことをすればいいかなどを自分たちで考えること ・ グループワーク ・ 異文化コミュニケーション、国際交流概論 ・ グループ活動を行う授業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業スタイルや学習内容・役に立った事を様々な視点で記してくださりありがとうございます。 ・ どのような授業でどのような取り組みや経験が役に立つのかといった具体的なご意見も履修生からの貴重なご意見として今後の授業運営に活かします
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーションをする授業 ・ 国際交流概論や資格が取得できる授業。また学外実習やフィールドワーク等の座学だけではなく実際に外に出て学べる授業 ・ セミナーで論文を書く授業が、物事を詳しく調べて論理的に物筋が分かるように書く難しさを学べて、知識を増やす点で役に立ちました ・ 英語の授業など ・ 教養科目(人間学など)によって、視野が広がり、社会人になった時に役立つと考える ・ 国際交流概論など、自分と異なる価値観に出会う授業。 ・ 子供と学校や社会保障の授業で、社会の問題について考えたこと ・ 集中講義、ゼミ ・ インターンシップ ・ グループワークやスライド発表の授業 	

(Q4) 社会人基礎力（清泉スピリット 5 つの力）の向上にさらに必要だと思う支援・取り組み

設問 4 では、社会人基礎力（清泉スピリット 5 つの力）の向上にさらに必要だと思う支援・取り組みについて、意見や要望を自由記述で回答を求めた。自由記述の記載はなかった。

自由記述	学科からの回答
回答記載なし	